

神戸大学生生活協同組合

Future!

覗いてみーや、関西。

Career Support
by Kobe Univ. CO-OP

アクセント
サンエース
山陽電気鉄道
スミセイ情報システム(住友生命グループ)
中西金属工業
日本生命保険
ハイレックスコーポレーション
パナソニックグループ
三ツ星ベルト
みなと銀行
森合精機
大和工業グループ



2018年度増刊号

関西企業特集

Introduction

本冊子は関西で活躍する・関西から活躍する、12の企業を紹介しています。
「関西で働きたい」人も「なんとなく東京での就活を考えている」人にも刺激を与えてくれます。
また、多数の神大OB・OGに取材をさせていただきました。文系や理系、院生など自分に近い先輩の就活や仕事の軸を知ることができます。

読み方ガイド

- CASE 1: 興味のある業種から読む
- CASE 2: 自分と似ている先輩から読む
- CASE 3: 興味のある取材テーマから読む
- CASE 4: 過去の関西企業特集も読む(生協キャリアサポートHPに掲載)
- CASE 5: 「**関西で働く!企業との交流会**」の予習に使う

関西で働く!企業との交流会

1/24(木) @鶴甲第1キャンパス
16:30~20:00 国際文化学部食堂南側多目的ホール



これ、ええぞ!

交流会
参加申込
フォーム
はこちら



- 関西で働く良さや企業の魅力が分かる
- 3月の就活解禁前に疑問や不安を解消できる!
- ゆったり企業と話せる(ドリンクバー併設)
- 学内開催&服装・入退場自由なので参加しやすい

参加企業一覧(予定)

アクセントア株式会社・サンエース・山陽電気鉄道・滋賀銀行・シスメックス
スミセイ情報システム(住友生命グループ)・椿本チエイン・デンソーテン
東洋ゴム工業(19年1月よりTOYO TIRE)・中西金属工業・日本通運
日本生命保険・ハイレックスコーポレーション・パナソニックグループ
三井住友海上火災保険・三ツ星ベルト・みたと銀行・森合精機
大和工業グループ・りそなグループ(りそな銀行・埼玉りそな銀行)

赤字は本冊子掲載企業!
冊子を読む→イベントで企業のブースに行く
より深い理解や質問ができて◎



Index

	アクセントア株式会社	p.4「社員の成長を育む豊かな土壌」 p.5「自分の提案が形になる」
	株式会社サンエース	p.6「お客様にとって最高の商品を提供する」 p.7「自分なりの営業スタイルを確立したい」
	山陽電気鉄道株式会社	p.8「思いが会社を前進させる」 p.9「軌跡から見えるやりがいとその先」
	スミセイ情報システム株式会社	p.10「人を大事にすることで生まれる強み」 p.11「学びが仕事のやりがいに繋がる」
	中西金属工業株式会社	p.12「老舗BtoBメーカーの意外な新事業」 p.13「より正確な数字を求める」
	日本生命保険相互会社	p.14「理念の浸透が会社を支える」 p.15「お客様のために働く」
	株式会社 ハイレックスコーポレーション	p.16「理想を持って海外へ」 p.17「仲間と働くことで生まれるやりがい」
	株式会社パナソニックグループ	p.18「人の温かさに救われた」 p.19「働くことで幸せな人を増やしたい」
	三ツ星ベルト株式会社	p.20「緻密な努力で物事の本質を捉える」 p.21「確かな手応えとプロとしての意識」
	株式会社みたと銀行	p.22「一人ひとりが役割を發揮するために」 p.23「人の役に立つ実感のある仕事やりがいとなる」
	森合精機株式会社	p.24「先を見据えたものづくり」 p.25「お客様に合わせたオーダーメイドを自分の手で」
	大和工業グループ	p.26「日本と海外の懸け橋に」 p.27「仕事を楽しめる環境」

取材テーマ別企業情報

理念・ビジョン	日本生命保険相互会社
技術力	三ツ星ベルト株式会社 森合精機株式会社
成長性	アクセントア株式会社 中西金属工業株式会社
グローバル性	株式会社ハイレックスコーポレーション 大和工業グループ
関西への貢献	株式会社サンエース
社風・風土	山陽電気鉄道株式会社 スミセイ情報システム株式会社 株式会社パナソニックグループ 株式会社みたと銀行

取材staff



この「関西企業特集」は、
神戸大学生が取材を行い、
記事を執筆しました。

大畑夏実	文学部4年生
大道優香	文学部4年生
中野立治	工学部4年生
山科卓摩	工学部4年生
藤澤由美香	文学部3年生
四元愛菜	理学部2年生
小嶋洋子	神戸大学生協キャリア・就職支援企画課 キャリアコンサルタント
宅美ゆかり	神戸大学生協キャリア・就職支援企画課
橋本順子	神戸大学生協キャリア・就職支援企画課

アクセントチュア株式会社



業種: コンサルティング 拠点: 大阪



Accenture Technology
(テクノロジーコンサルティング本部)
マネジャー

北岡 賢人さん

会社・仕事紹介

社員の成長を育む 豊かな土壌

取材テーマ
▶▶ 成長性



世界中に拠点がありワールドワイドに活躍できるアクセントチュア株式会社は、国内でも金融・通信・公共・製造業など幅広い業界に向けて、問題の把握からゴールの設定、そこに至るまでの戦略の立案とサポートというコンサルティングサービスを提供している。

アクセントチュアには5つの組織(ストラテジー・コンサルティング・デジタル・テクノロジー・オペレーション)があり、プロジェクト制で仕事を進めていく。各組織からお客様の問題解決に必要な人材がピックアップされ、プロジェクトメンバーが協力してゴールを目指すのだ。興味のあるプロジェクトに対して参加したいと声をあげること、そのプロジェクトに相応しい実力を備えていることが重要だ。つまり、やりたい仕事をやるために日々成長が求められている。

どのプロジェクトに参加したいのか、どのようなキャリアパスを描きたいのか。アクセントチュアでは能動的に考え、自分自身でチャンスをつかんでいく文化が根付いている。そして、社員一人一人のキャリア形成をバックアップするための充実した制度が備わっている。OJTはもちろん、カウンセラーに仕事やキャリアパスを相談でき、社内ソーシャルラーニングでは最先端の技術や情報

を共有することができる。マイラーニングというwebでの学習教材はなんと24,000コースがあり、自分の伸ばしたい能力や業務に応じたコースを選択して学習できる。他にも海外トレーニングで海外へ実際に行く、海外スタッフがボランティアで語学学習のサポートをしてくれるなどグローバル企業ならではのものもある。

そして、このような制度だけではなく、ワングローバルという相互扶助の精神が根付いており、誰かが困っていたら必ず助ける風土も社員の成長に一役買っているようだ。困っている若手に寄り添い、「何がわからないのか」をクリアにして成長を促している。やりたい仕事とそこに至るためのツールが用意されており、自分次第でどこまでも成長できる企業だ。世界最大のコンサルティング会社アクセントチュアにあったのは、社員の成長を育む豊かな土壌だった。

OB・OG紹介

自分の提案が形になる

取材テーマ
▶▶ 自分が成長した経験
▶▶ 達成感を得た経験



達成感は難易度×やりがいの方程式。そう理路整然と語る北岡さんは、意外にも学生時代は人前で話すことに苦手意識を感じていた。しかし、自分の思いをロジカルに整理し、伝えるための事前準備を大切にする今、人を巻き込んで仕事することは北岡さんの得意分野となっている。

入社してから一番長く携わったのは、ある企業の子会社の立ち上げだった。北岡さんにとって未知の世界であり、分からないことは社内教材や他社の事例から学び、有識者に相談することで自分に足りない部分を埋めていった。そして、少しずつ整理したタスクを確実にこなすプロジェクトをゴールに導いた。また、プロジェクトに携わる中で、会社の現状から工場の経営で改善したい部分が見えてきた。北岡さんはもともと製造業に思い入れがあり、改善してみたい・より良くしたいという思いが募っていった。そして、複数の企業間で効率的な物流を構築することで経営成果を高めるSCMの提案へ乗り出した。

アクセントチュアの社内ではプロジェクトと並行して、社員が新規

案件の提案を行っている。社内でも採用されたアイデアが提案活動の過程で洗練され、顧客の合意を得た案件はプロジェクトとして稼働する。北岡さんも過去に数回、この提案活動の一員となったことがあった。そして、今回北岡さんの知識と熱意が伝わりSCMのアイデアが採用され、提案活動を行う機会に恵まれた。自分が発案したアイデアが採用されたのは初めてであり、喜ぶもひとしおだった。初めてリーダーとして提案活動を率い、これまでに培った経験と論理的で当事者意識を感じさせるプレゼンが功を奏し、見事プロジェクトの稼働が決定した。この出来事は北岡さんにとっても感慨深く、今までで一番の達成感を得たそうだ。

北岡さんは現在、このプロジェクトと並行して、神大生の新卒採用活動にも携わっている。その中で神大生の動き出しの遅さには危惧を抱いており、選考が始まる前にしっかりと準備しておくことが重要だというアドバイスをいただいた。仕事も就活も準備が大事なのだと感じた。



2011年工学部卒業
北岡 賢人さん

事業内容・注目点

アクセントチュアは「ストラテジー」「コンサルティング」「デジタル」「テクノロジー」「オペレーションズ」の5つの領域で幅広いサービスとソリューションを提供する世界最大級の総合コンサルティング企業です。40を超す業界とあらゆる業務に対応可能な豊富な経験と専門スキルを生かし、ビジネスとテクノロジーを融合させて、世界120カ国以上のお客様のハイパフォーマンス実現と、持続可能な価値創出を支援しています。

社風・風土

オープンな企業文化
"シンプルに考え、ストレートに伝える"
立場や年次に関わらず自分の考えを率直に伝えることが歓迎される、アクセントチュアのカルチャーを表す際によく使われる言葉です。

関西で働く魅力

イノベティブで、IoTをはじめとするデジタルへの感性が高く、グローバルでビジネス展開を加速させている企業・組織が数多くある関西に根を下ろし、長きにわたるパートナーとしてお客様の成長に貢献ができます。

HPアドレス▶▶ <https://www.accenture.com/jp-ja/new-applied-now>

株式会社サンエース



業種: 商社 本社: 兵庫



代表取締役社長
中山 勇人さん

会社・仕事紹介

お客様にとって 最高の商品を提供する

取材テーマ
▶▶ 関西への貢献



神戸市御影に本社を構える株式会社サンエースは、塗料販売からスタートした企業であり、現在ではリフォーム事業とオートサプライヤー事業を中心としている。リフォーム事業は、外壁塗装から発展した事業で、現在神戸市内を中心に展開している。オートサプライヤー事業では主に自動車補修用塗料の取扱い、工場の職人に塗料を塗る際の環境や下地処理の方法についてコンサルティングを行っている。サンエースはオートサプライヤー事業において業界No.1の企業だ。

サンエースがどちらの事業でも大切にしていることは、お客様にとって最高の商品を提供すること。リフォーム事業においては、サンエースは神戸最大級のショールームを持ち、複数のメーカーの水回り商品を展示している。実はショールームで様々なメーカーの商品を一度に見ることが出来るのは珍しい。これはお客様に、一度に複数メーカーの商品を実際に触って比べてもらうことで、最も適した商品を選んでいただくためだ。また、オートサプライヤー事業では、プライベートブランドを作るにあたり、お客様の声を元にメーカーと共に商品改良を続けている。このような顧客第一の姿勢は、実際にお客様からも評判が高い。

西日本を中心に事業展開を行うサンエース。関西への貢献に

ついて、リフォーム事業においては、さらに関西の住まいと暮らしに関わっていく方針だ。2016年には、株式会社サンエイをグループ会社化した。不動産の取り扱いや新築も取り扱うサンエイとともに、リフォーム事業に留まらず事業展開を広げていきたいという。オートサプライヤー事業では、水性の自動車補修用塗料への切り替えを進めている。水性塗料は環境にやさしいのはもちろん、シンナーを含む溶剤系塗料とは違って臭いが全く出ないため、工場の職人にとってもカーオーナーにとってもメリットが大きい。サンエースは、塗装の際の湿度や温度について丁寧にアドバイスを行うことで、水性塗料の普及を支えている。社長は、今後水性塗料をさらに広めることで関西へ貢献していきたいと語った。

最後に社長は、神大生に対して「就職活動において、視野を広く持ち、最後は自分が何をやりたいかで会社を選んでほしい。そしてその選択肢の一つとして、神戸という地で活躍する機会があるということを知ってほしいですね」とメッセージを送ってくれた。

OB・OG紹介

自分なりの営業スタイルを 確立したい

取材テーマ
▶▶ 自分が成長した経験
▶▶ 達成感を得た経験



弥勒安紗さんは入社4年目。人事部を経て現在はJPMCという部署に所属している。JPMCは2016年に新しく設置された部署であり、賃貸物件のオーナーに対し、物件の資産価値を上げるためのアドバイスを行っている。

弥勒さんはJPMCでの業務を通して日々成長を感じているという。この部署は、弥勒さんと先輩の二人体制だ。先輩はリフォーム営業を丸3年行っていた経験から工務の知識が豊富だが、弥勒さんはその経験がなく工務の点では知識が浅かった。そのため、弥勒さんは先輩と自分を比較して落ち込み、どのように営業をすればいいのか悩む時期が長かった。しかしその時に、「工務ができるかどうかが大切なのではなく、自分を活かす方法を見つけるのが大切だ。まずはお客様の立場で考えてみてはどうか」とアドバイスを受け、今の自分は工務に関する専門的な知識がないからこそ、お客様の気持ちを理解できる、と気付く。現在はこのアドバイスを活かし、お客様が疑問を持ちそうな部分を事前に調べることで、お客様が聞きづらいことをフォローするよう心掛けているという。弥勒さんは、日々自分なりの営業スタイルを試行錯誤する中で、自身の

成長を感じている。

弥勒さんは今までの経験を通して、どのような仕事でも、お客様にとって何が良いのかを突き詰めて考える大切さを感じている。例えば、賃貸物件の入居者を増やすには、ひたすらお金を掛けて設備を整えればよいわけではない。賃貸物件のオーナーに入居者の数が増えないと相談されたとき、原因が管理会社の体制のずさんさであれば、無闇にリフォームを進めるのではなく、まずは良い管理会社を紹介する。管理会社の紹介だけではお金にはならないが、第一は目の前にいるお客様を不安にさせないことだ。このような提案を行い、信頼を積み重ねてきたことで、JPMCでは以前に相談を受けたお客様からのリノベーションの依頼が増えてきている。弥勒さんは、お客様の為という思いを買わせてくれるサンエースという会社にとっても感謝しているという。

最後に今後の目標を聞くと、「今は先輩の力を借りつつお客様対応を行っている。でも、今後はゼロから一人で対応してお客様から信頼されるよう成長したい」と語ってくれた。



2013年法学部卒業
リフォーム事業部(新事業JPMC所属) 営業
弥勒 安紗さん

事業内容・注目点

【創業以来69年連続黒字、自己資本比率84.9%】神戸本社の優良中小企業！神大OBOG活躍中！売上業界全国NO.1のオートサプライヤー事業部(専門商社)は業界のリード役！当社創設の全国組織『トップネット』は、プライベート商品180品目以上です。リフォーム事業部は地域密着型、アフターフォロー体制も万全！地元のお客様に愛されています。新事業始動、M&A、神戸最大級のショールームオープン等、成長中です！

社風・風土

サンエース最大の特長は「理念経営」。職場を自己成長のための「道場」と定め、「皆揃って幸せになりたい」の実現を目指しています。そして社員一丸となって『100年企業』を目指し日々仕事に励んでいます！

関西で働く魅力

「お客様の喜びを肌で感じられる」。これが地元密着企業の最大の喜びの一つです。神戸で創業して69年。常に目の前のお客様の幸せを追求しながら事業展開を続け、抜群の経営安定を実現しています。

HPアドレス▶▶ <https://www.sunace-net.com/index.html>

山陽電気鉄道株式会社



業種: 鉄道



本社: 兵庫

OB・OG紹介

軌跡から見えるやりがいとその先

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



中川正貴さんは地元関西で働きたい、地域の人の生活を支える企業で働きたいという思いから、2013年に山陽電車へ入社された。この5年間で、鉄道営業部と経営統括本部という2つの部署を経験している。

鉄道営業部では、物品の購入や諸経費の精算、制服の手配、安全衛生に関わる仕事などに約3年間携わった。経営統括本部へ異動した後は、社員の健康保持・増進や働きやすい職場環境作りに関する業務を担当している。

現在中川さんが特に力を入れて取り組んでいるのは、働き方改革に伴う勤務体系の見直しや業務の効率化を推進する仕事だ。この仕事では、毎年のように変わる労働関係法令や細かな社内規則を理解する必要があるなど苦勞することも多いが、学生時代に法学部で学んだ内容を思い出したり、上司や同僚の助けを得たりしながら日々業務に励んでいると中川さんは語ってくれた。

入社前、中川さんは漠然と地域に密着した事業に携わりたいと考えていた。そして入社後、鉄道営業部時代に駅業務の応援などで実際にお客さまと接する仕事をした時、山陽電車がどれだけ地

域の方々に親しまれ、愛されているのかを実感し、同時に大きなやりがいを感じた。また、それに加えて自分の成長を実感した際にもやりがいを感じている。経営統括本部へ異動になった直後は不慣れな仕事に戸惑い、周囲に助けをもらうことも多かったが、徐々にできる仕事も増えていき、最近を担当している仕事の中で「こうすればもっとよくなる」と思うことがあれば上司にも積極的に提案するよう努めている。自分の考えをしっかりと表明し、実際の業務に反映できると、働く楽しさも増してくるそうだ。

そんな中川さんに今後の展望を伺ったところ、山陽電車はグループ会社も含めて様々な事業を展開しているため、今後仕事の内容が変わることもあるだろうが、どのような業務を担当することになっても、お客さまに満足いただき、沿線地域の活性化につながるような仕事をしていきたいという回答を頂いた。これまでの成長を糧にどのような業務においても、自分の力を最大限に活かしたい。会社に入社することがゴールではなく、そこから自分のやりがいや目標が見えてくる。中川さんのお話から大切なことを教えて頂いた。

代表取締役社長
上門 一裕さん



会社・仕事紹介

想いが会社を前進させる

取材テーマ
▶▶社風・風土



インフラを担うという事業の安定性や、保守的・堅実なイメージに惹かれて鉄道業界を志望している学生は多いのではないだろうか。その一方、鉄道業界はお堅い・変化が少ないなどのマイナスイメージも持たれがちだ。しかし、山陽電気鉄道株式会社ではそのようなマイナスイメージを打ち破る様々な企画が活発に進行中であり、闊達な雰囲気にあふれていた。この原動力となっているのは、社内に広がる「沿線を活性化したい」という強い想いだ。

例えば、アニメ「カードキャプターさくら」とコラボしたスタンプラリーや夜桜を観光できる「敦盛桜2018」、他の交通機関や百貨店と提携したお得な1DAYチケットなど、定期外のお客さまにも利用を促す魅力的な企画を多数実現している。また、台湾の国鉄との姉妹鉄道協定を締結し文化交流や相互に観光PRを行い、その他の国へも兵庫県や他の交通機関・旅行代理店などと協力して観光客の誘致をするなど、海外からの観光客の増員を目指し、沿線の魅力を発信している。

今回取材させて頂いた代表取締役社長の上門一裕さんも、沿線の活性化に向けて社員の意識が変わってきていると語ってくださった。台湾との交流が盛んになったことで自発的に中国語を学び始めた社員や、上記のような前例のない企画にも積極的に

挑戦している姿が増えているそうだ。かつての内向的で閉じこもりがちな姿勢から、外交的に人の輪を広げたりあえずやってみようという果敢に挑戦する姿勢へ会社全体が変革している。

そして山陽電車が今求めたい人材は、これまでの事業を引き継ぐだけではなく、常に新しく挑戦していく人物だ。安定を志向する学生だけではなく、バイタリティに富んだ学生にとっても楽しんで働ける魅力的な企業だと感じた。

最後に、社長から神大生へのメッセージを伺った。「今自分がやりたいこと・やるべきことを先送りせず、精一杯全力でやり遂げたい。この先送りにしないことは社内でもかなり大切にされているそうだ。この姿勢も山陽電車の推進力になっているのだろう。

事業内容・注目点

山陽電気鉄道株式会社は、兵庫県南部を拠点とする歴史ある鉄道会社です。本業である鉄道業を中心に、不動産業、流通業、レジャー・サービス業など、地域の皆さまの生活を支える総合サービスをグループ全体で展開しています。また、インバウンド事業の展開や人気アニメとのコラボイベントの開催など、日々新たな挑戦を続けています。「様々な角度から地域に貢献できる」山陽電車の仕事にぜひご注目ください!

社風・風土

「お客さまを大切に」という想いを全社員が共有している山陽電車では、職場においてもアットホームな雰囲気があります。また、守りに入らず積極果敢に挑戦する姿勢を大切にしており、明るく活気に満ちた会社です!

関西で働く魅力

兵庫県、そして関西には「魅力的なのにあまり知られていない場所」や「まだまだ発展の余地がある場所」が数多く存在します。地域の活性化や街づくりに主体的に関わりたい方は、関西での就職がオススメです!

HPアドレス▶▶ <http://www.sanyo-railway.co.jp/index.html>

スミセイ情報システム株式会社



業種: IT
本社: 大阪

OB・OG紹介

学びが仕事のやりがいに繋がる

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



学生時代はプログラミングの知識が全くなかった柏井さんが入社を決めたのは、試行錯誤してお客さんにベストなものを提供できるというシステムエンジニアへの興味と、気づいた人がおらず自然体で働いている社員が多いという会社の雰囲気の良いさに惹かれたからだった。

スミセイ情報システムでは1年間かけてじっくりと新人研修を行っている。社会人としてのマナーやシステム開発、加えて保険や税に関する知識についても一から学ぶ研修だ。保険業務について学ぶのは、住友生命保険やその他の保険会社のシステムを構築する時に役立つためだ。柏井さんは自分の書いたものが確実に動くというプログラミングの面白さに触れ、2年目からは現場でシステム開発を行い、お客様の要望を実現する機会にも恵まれやりがいを感じている。

そして、入社4年目の現在ではシステムの設計を任せられるまでになっている。保険のシステムを取り扱う部署で、保険の制度や仕

様変更をシステムに反映させるための設計を行っている。研修で学んだ保険の知識を駆使しながら上司と密に相談し、どのようなアプローチでお客様の要望をシステムに反映させるのか日々試行錯誤している。出来上がった設計をお客様に提案し開発が決まった瞬間には、達成感と安心感が湧いてくる。また、システムが完成し、問題なく稼働した時には本当にホッとするそう

だ。先輩に言われた「自分で考えてから相談することの大切さ」を大事にしなが、分からないことは素直に聞き経験を積んでいる。今は上司の方の奥深い知識や視野の広さを近くで見て勉強しているそうで、今後の目標は1人でより早くより正確に設計をすることだと教えてくれた。いきいきと答えてくれた柏井さんの姿から、仕事の楽しさや上司への憧れの気持ちが強く伝わってきた。

会社・仕事紹介

人を大事にすることで生まれる強み

取材テーマ
▶▶社風・風土



システムエンジニアに対して、個人作業で淡々とプログラミングをする孤独なイメージをお持ちの方が多くはないだろう。しかし、今回お話を伺った神大OBの田中さんからチームワークの大切さが活きる仕事であることを教えて頂いた。

スミセイ情報システム株式会社には、住友生命保険のシステムを支える内販と、その他の産業にも展開する外販の大きく分けて2つの仕事がある。いずれもお客様の要望からシステムを構築し、その運用管理まで担っている。これらの仕事はチーム単位で行われ、お客様とのコミュニケーションはもちろん、チーム内での協力が不可欠だ。このチームワークで1つの仕事を成し遂げるとい面白さは、かつて自身が大学で経験したサッカーなどの団体競技に通じるものがあると田中さんは語ってくれた。

社内では人や、人との繋がりを大切に社風・風土が根付いている。3ヵ月に1回は上司との面談があり、今の仕事やこれからのキャリアについて相談できる機会が設けられている。また、経営層との距離も近く、会社の方向性や意図が汲み取りやすい環境である。業務改善したいところをタイムリーに伝えられる環境が働きやすさを生みだしている。研修制度も充実しており、年次や昇格のタイミングで行われる研修以外にも、社内外で自分が興

味のある研修に参加することができる。その他にも、在宅ワークや勤務時間を調整できるスライド勤務、海外研修など社員一人一人の働きやすさやキャリアを大切に社風を拡充している。

こうした制度面だけでなく、実際の現場でも人が大切にされている。悩んでいた相談に乗ってくれる、仕事が行き詰まっていたら助けてくれる仲間存在にはいつも助けられている。困っている人間をフォローし合える関係性が築かれており、誰しもが親身に助けてもらった経験があるからこそ、困っている仲間を自分も支えるという連鎖が育まれている。社外のお客様に対しても、自社の利益だけでなく相手の立場を考えて提案する姿勢が高く評価されている。社内外で大切にされる人と人との関係性が会社の強みであり財産なのだと感じた。

2015年工学部卒業
生保ソリューション第3部
柏井 梨江さん

事業内容・注目点

【2019年入社3名内定!】スミセイ情報システムは、住友生命グループのIT戦略の中核を担う企業として、得意分野である金融システムを軸に公共・サービス等、幅広いフィールドでICTソリューションを展開しています。特に若手研修は業界トップクラスを誇り、入社5年間でSE基礎力を身につけ、各自の強みを活かして活躍しています。2016年「えるばし」最上位の3段階目の認定!

社風・風土

あなたの強みはなんですか? 1人ひとり能力と特性を活かして働ける会社です! ITの仕事に必要なのは好奇心と向上心。年齢は関係ありません! 挑戦した分、スキルが身につきます。

関西で働く魅力

【住友生命グループ】住友の発祥は大阪。私たちスミセイ情報システムも関西で生まれた会社です! 大阪・東京の2本社社、大阪で働く社員は6割以上!

HPアドレス▶▶ <http://www.slcs.co.jp/>

中西金属工業株式会社



業種：機械



本社：大阪

OB・OG紹介

より正確な数字を求める

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



坂井田康成さんが所属する軸受事業部の製造企画部は、工場との納期調整や原価管理などを担当する部署だ。坂井田さんは入社してから5年間、この部署で上記の業務や資材調達、損益の計算と分析などに携わってきた。

印象深い仕事として、資材調達での価格交渉のお話を伺った。石油価格の下落に伴い、取引先とゴム材料の価格交渉を担当した。しかし、当時の現場では原材料の価格変動に伴う関連資材の価格調整の厳密なルールはなく、交渉期間は一年半にも及んだ。そこで、過去の石油価格を遡り、交渉時の石油価格に近かった時のゴム材料の価格を参考に適正価格を算出し、現在の価格との乖離を指摘した。また、他部署とも協力して交渉相手の競合材料メーカーを増やすことで価格比較を行い交渉した。その結果、かなりのコストを抑えることに成功した。

このように社内や社外で交渉や調整を行う際には、説得力のある数字や説明が必要であり、坂井田さんはより正確な数字を導くことを大切にしている。数字を正確にするためには、工程に掛かる

時間や人員、コストなどの製造工程に対する正確な把握が必要だ。そのため、これからの展望として現場に近い工場での経理を経験したいと考えている。坂井田さんにとってメーカーで働く醍醐味は、製造工程が利益にどう関わっているのかを直に感じられることにあるそうだ。学生時代に教科書で学んでいた利益算出のプロセスを、現在は実務として活用できているのが仕事の面白さでありやりがいだ。自分が算出した予算や原価計算と、現実が重なる瞬間に楽しさを感じている。

知識だけでなく、学生時代の経験は仕事に対する姿勢に繋がっている。ゼミの先生が度々口にした「教科書を鵜呑みにせず、まずは疑わないと意味がない」という言葉は、特に印象に残っていると教えてくれた。普段仕事で行動を起こすときや後輩に指導するとき、この言葉を心にとめ、自分で考える事を大切にしている。自分の頭で考えること、考えを止めない姿勢がより正確な数字を導くことに繋がっているのだろう。

特機事業部 製造企画部
製造企画グループ
丸山 彩さん

会社・仕事紹介

老舗 BtoBメーカーの 意外な新事業

取材テーマ
▶▶成長性



中西金属工業株式会社(NKC)は、軸受事業部・輸送機事業部・特機事業部の主に3つの事業部で構成されている老舗のBtoB企業だ。今回お話を伺った丸山彩さんは、前職ではBtoCを経験され、製造業への興味から転職を決めた。現在ではその経験を活かしながら特機事業部で新事業に携わっている。2017年に特機事業部に立ち上げられた新事業の商品名は「Catroad+」。壁に簡単に取り付けられる「猫用ステップ」だ。「Catroad+」のステップ部分と金具部分が独立している構造は特許を申請中であり、これまで培ってきた技術力が製品に確かに息づいている。老舗BtoB企業の新規事業とは、意外にもペット関連事業だった。

この製品を開発した特機事業部は、戸車というガラス戸や網戸をなめらかに動かす部品など住宅関連の部品を製造販売している「暮らしに寄り添う」事業部だ。事業の幅を広げ新しい暮らしに寄り添う事業を立ち上げたい、BtoCのマーケットをより広げたい、という想いから今後も市場の成長が予測されるペット事業が生まれた。

丸山さんにとって新規事業の醍醐味は「自分の思っている事がベースになる」ことだという。製造工程や原価のコントロール、販

売サイトの運営管理や広報活動に新規営業の開拓など、多岐にわたる仕事は大変でもあるが、自分の理想やアイデアが膨らみ製品を形作っていくことに大きなやりがいを感じている。また、幅広い業務を担当する事でBtoBとBtoCの両方の面白さに触れられる「贅沢な日々」だと語ってくれた。現在は、5年以内にこの事業を確立させ、ゆくゆくは犬や鳥、魚などの動物にも対応した「アニマコレ」というブランドを展開させる事を目標にしている。

このBtoCの新規事業は会社にとって新しい試みであり、ここから更なる事業や会社の成長が期待されている。こういった新事業を支えるのは、「変革し続ける」という会社の創業時から変わらない思いだ。NKCは変革し続ける会社であり、今回の新事業も会社の成長への一例だ。BtoB企業や中西金属工業という括りや名前に捉われない成長が続いている。

2013年経済学部卒業
軸受事業部 製造企画部 製造企画グループ
坂井田 康成さん

事業内容・注目点

「社会にいい回転を」社会は勝手に回っているのではなく、私たちが回すものだという思いを胸に、NKCは94年の歴史の中で着実に売り上げ規模を拡大し、安定した成長を続けています。その理由は、ベアリングリテーナー、コンベアシステム、住宅関連製品という主力製品がいずれも市場で高いシェアを獲得し、トップメーカーとしての技術力を発揮しているからです。さらなる成長を目指し、新規事業の開発も積極的に進めています。

社風・風土

やってみようという思いを実現させる社風です。フレックスタイムやテレワーク、副業など「働き方の多様性」や物流や農業、エネルギーと「異分野への新規事業進出」という面にも社風が表れています。

関西で働く魅力

大阪と言えばモノづくり！高い技術を持ったメーカーが集まる土地、関西で働く魅力は周りから良い刺激を受けながら世界を相手に働けるということだと思います。共に関西から世界を、社会を動かしてみませんか？

HPアドレス▶▶ <http://www.nkc-j.co.jp/>

日本生命保険相互会社



OB・OG紹介

お客様のために働く

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



入社6年目の上村さんは2018年3月から人材開発部に配属になった。人材育成に加え、新卒採用、中途採用を主な業務として行っている。

配属当初は手探りの部分も多かったが、採用で関わった学生に対して自身が会社への入り口となって見守り、社会人としてできるフォローやアドバイスを。そしてそれが実を結び、学生が日本生命に入社するという決断をしてくれた時には喜びを感じるという。しかしここからが人材開発部の魅力だと上村さんは語る。自分が見てきた学生を入社後もフォローし、今後の成長を見ることができると、やりがいを感じている。

現在の部署では採用や人材育成を担当しているということもあり、直接的にお客様と関わることがほとんどない。しかし採用に際しても、「お客様と向き合う」という理念に共感して働いてくれるかどうかの視点も大切であり、どの部門においても理念を意識しながら働くことの重要性を感じているようだ。

将来的には販売部門で仕事をしたいと言う上村さん。入社1年目の営業経験で最も印象に残っているのが、初めてご契約をいただいたお客様である。それは最近日本生命の職員にお会

いできていないという声をいただき訪問した、既に契約に加入の30代の男性だった。営業は初回の訪問で印象が大分定まってしまうので、訪問前に入念に準備しなければならない。限られた情報の中でこのお客様はどのような方なのか、どういったことを求めているのかと想像して作成した保険プランに、「こういう保険があることを知らなかった。わざわざ教えに来てくれて本当にありがとう。」とすごく喜んでいただいた。「お客様に感謝していただけるのは主に保険金が支払われるときなので、普段お客様にこのようにお声がけいただく機会はあまりない。そのため、最新の保険情報をFace to Faceでお伝えすることで感謝していただいたというはすごく印象に残っている。」と語ってくれた。お客様と直に接することの重要性を体験して、日本生命がやっていることは正しいことなんだと、やりがいを感じたという。

上村さんが、日本生命が大切にしているお客様との関わりに関心し、生き生きとした表情で仕事について語る様子は、理想的な社会人そのものであり、自らが仕事に就くとき何を大切にすべきかを考えさせられた。

人材開発部 課長補佐
上村 裕展さん

会社・仕事紹介

理念の浸透が会社を支える

取材テーマ
▶▶理念・ビジョン



日本生命は大阪に本社を置く生命保険会社だ。日本生命の理念は、「お客様と向き合うこと」である。創業から129年を迎え、近年の少子高齢化や女性の社会進出などのマーケット環境の変化に伴い、お客様のあらゆるニーズに寄り添った幅広い商品ラインナップの投入や、顧客層・地域特性に応じた販売チャネルの複雑化を行っている。

今回、人材開発部の上村さんにお話を伺った。日本生命は、経営計画において人材育成を重要基盤の1つとして位置付けている、いわゆる人で成り立つ会社である。現代のインターネットの普及・IT技術の進歩といった環境変化においても、お客様に対するFace to Faceでのサポートを大切に、質の高い商品・サービスを提供し続けている。

日本生命は7万名もの人材を擁している。市の総人口に値するほどの大規模なこの会社で、理念の浸透はどのように行われているのか。その答えの1つが入社1年目のプログラムにあった。日本生命では、入社1年目から支社で営業職員のサポートをしたり、加入商品を分析してマーケット開拓の視点を学んだりする育成方法を採用している。時に営業職員に同行して現場を体感するなど、お客様をより意識する機会を積極的に創出し、入社早期の

まっさらの状態で「お客様と向き合う」マインドが組み込まれることによって、より深い理念の浸透につながると上村さんは語る。「100人入社して、100人全員を育てていくという考えで初期育成を試みている。」上村さんのこの言葉には、人材育成にかける、日本生命の理念が現れている。

また、近年は国内だけでなくとどまらず、海外展開を積極的に進めている。そこにおいても「お客様と向き合うこと」が鍵となる。海外においても、第一に人に寄り添うことで、言語の壁や保険に対する認識の違いを打破し、日本生命のFace to Faceの営業ノウハウを拡大している。

人材育成や海外戦略など様々なところで、日本生命の理念が反映されていると感じた。



2013年発達科学部卒業
上村 裕展さん

事業内容・注目点

<事業内容>

- 1.生命保険業(個人および企業向け各種保険商品の引受・保全サービス)
- 2.付随業務・その他の業務(有価証券投資・貸付・不動産投資など受託資産の運用、付随業務)

日本生命にはリーテイル、ホールセール、資産運用、海外事業など幅広い業務領域が存在します。やりがいのあるフィールドが、日本生命には広がっています。

社風・風土

日本生命は、1184万人のお客様から66兆円の資産をお預かりする生命保険業界のリーディングカンパニーです。「世界一の安心を提供する企業」を目指して、常に戦略的な挑戦を続けています。

関西で働く魅力

関西では資産運用部門やホールセール部門に加え、「お客様サービス本部」を構えています。お客様サービス向上(契約事務や支払事務等)に向けて企画・運営を実施しています。

HPアドレス▶▶ <https://www.nissay.co.jp/>

株式会社ハイレックス コーポレーション



グローバル営業本部 欧州事業部
専務取締役

寺浦 太郎さん



会社・仕事紹介

理想を持って海外へ



株式会社ハイレックスコーポレーションは、主に自動車部品のコントロールケーブルを取り扱っている。大きな特徴は、独立系の会社であるため国内の名だたる自動車メーカーをはじめとして、フェラーリなど海外の自動車メーカーにも広く製品が使われていることだ。この分野では国内のシェアはもちろん、世界シェアでも1位を誇るB to B企業だ。

海外での活躍の第一歩は業界内でもかなり早い1970年代に始まった。会社のポリシーである「利益より理想を追求する」という思いのもと、自動車産業の本場で認められたという夢を持ってアメリカに進出した。顧客がゼロの状態に進出したアメリカは、今では最大規模の取引先だ。また、ヨーロッパやアジアなど現在18カ国40を超える拠点にまで活躍の場を広げている。

社員が海外に赴任する前には1年間の語学研修、国内での実務経験、海外拠点での活躍というプロセスが描かれており、海外勤務を後押しする制度が生まれている。その結果が社員の1割が海外赴任の経験者という数字にも表れている。今回取材させていただいた寺浦専務もインドやヨーロッパでの勤務を経験されている。

社会への貢献を大切にしているハイレックスでは現地への貢献も

大切にしており、拠点の中心になる人材を日本から少数精鋭で派遣し、現地の人と協力して運営する体制がとられている。寺浦専務が3年間赴任されたインドの拠点も日本人の社員はたった3人で、300人の現地人材をまとめるのは容易ではなかった。安全性や品質への高い理想や社会に貢献するという理念、作業の指示の背景を現地の人と共有するためには、まず相手の話をじっくり聞き理解しようとするのが大切だ。そこから単に命令するのではなく、なぜこうして欲しいのかという部分を共有していった。時には自らラインの手本として作業するなど試行錯誤した3年間だった。その結果、赴任当初は規律がなく雑然としていた工場に規律やメリハリが生まれたのは本当に嬉しかったという。また、生活や文化の違いにも触れ視野が広がり、拠点で様々な仕事に携わったことが大きく成長に繋がった。

このように理想を持って活躍の場を広げるハイレックスでは、業界1位という立場に甘んじず守りに入らない人材を求めている。また、自らの足で現実を掴みに行くバイタリティを持ち、自分の頭で考え抜くことができる人材の活躍が期待されている。

OB・OG紹介

仲間と働くことで 生まれるやりがい



藤波さんは国内大手自動車メーカーの工場からほど近い、静岡県の中津川工場で工場長を務めている。工場長に就任する前は、製品の図面を書く設計、自動車メーカーへ出荷するゲストエンジニア、製品の品質を守る品質管理や中国の煙台での新拠点の立ち上げなど、かなり幅広い仕事を経験されている。

いずれの仕事にも共通するやりがいは、成功や失敗の挽回を仲間と共有できることだ。ハイレックスでは、「成功は3点、何もなければマイナス1点、失敗してもトライしたら1点」という評価姿勢がある。製品の製造は決して一人でできるものではない。そのため、自分のミスが周りに大きく作用してしまうこともある。藤波さんも自分の図面の曖昧な表現が不良品の製造に繋がった苦い経験があった。そこで諦めずに失敗を挽回するには時間や労力を要するが、立て直せた時や成功した時に周りの仲間と喜びを共有できるのはそれにも勝る大きなやりがいだ。また、苦労して作った製品をメーカーに届け、それが使われているのを見たり感じたりするのもモノづくり醍醐味であると語ってくれた。

藤波さんは、現在は工場の生産と品質管理の長として工場全体

を統括している。工場には製造ラインで働く作業員以外にも、営業や設計など様々な仕事を請け負う社員が在籍している。それらの仕事の進捗を管理・調整していくのが工場長の仕事だ。工場長としてのやりがいを伺ったところ、部下や仲間が褒められることとご回答いただいた。最近一番嬉しかったのは、「緑化」のアイデアが表彰されたことだ。「緑化」とは作業の難易度が高い部分を平易にすることだ。工場では作業の安全を確保し品質を向上させるために、この「緑化」が模索されている。電気を使わずに重力や部品の形状を利用して「緑化」を行うことは「からくり改善」と呼ばれている。一緒に「緑化」について考えてきた工場の仲間が、この「からくり改善」のアイデアで社内表彰を受けたことが藤波さんにとっても大変誇らしく嬉しかったという。

最後に会社の強みについても教えていただいた。様々な場所で様々な仕事を担い幅広い知識や経験が培われた仲間と一緒に働けること、そして、社会に貢献するという理念が社員の一人一人の行動に結びついていることこそがハイレックスコーポレーションの強みであった。

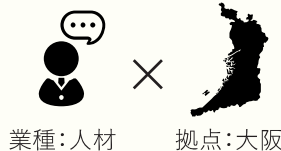


1995年神戸商船大学(現・海事科学部)卒業
三ヶ日工場 工場長

藤波 泰史さん

事業内容・注目点	社風・風土	関西で働く魅力
<p>【輸送用機械器具製造業】 各種コントロールケーブル及び医療用器具の開発・製造・販売 二輪・四輪、トラック・バス・特殊車両、建機等国内では、全てのメーカーに取引を頂き、海外でもアメリカ・韓国等自動車先進国から中国・インド・ベトナム等新興国まで、拠点を持つ。 ウィンドレギュレータ、パワースライドドア他システム化した商品の開発や、最先端技術の医療機器・福祉分野でも社会に貢献しています。</p>	<p>「この仕事を通じて社会に貢献する」「この仕事を通じて立派な人を創る」を経営理念とし、ケーブルをコアとした製品の研究開発を続け、電気・電子、最先端技術を採用した医療機器分野へも進出してきました。</p>	<p>関西には首都圏に負けない日本屈指の学術・研究レベルを誇る大学や研究機関があり、新しいモノやサービスを生み出す基盤のノウハウや技術の研究も活発です。その中で当社は、グローバル企業として展開しています。</p>
HPアドレス▶▶		http://www.hi-lex.co.jp/

株式会社パソナグループ



業種：人材

拠点：大阪

OB・OG紹介

働くことで幸せな人を増やしたい

取材テーマ ▶▶ 自分の夢とパソナ



青山さんの夢は「働くことで幸せな人を増やすこと」。青山さん自身、仕事を通して自分の役割があること、自分の役割を全うすることで誰かに喜んでもらえる幸せを感じている。求職者の方にもそういった幸せを感じ「仕事をしてよかった」と思ってもらいたいという。

求職者の方に合った仕事を紹介するには、話を聞くことが不可欠だ。相談に来られた時、言葉の上辺だけを捉えるのではなくその裏側には何かあるのかを聞き、その方が本当に求めているものに辿り着かなければならない。また、お話を聞くことで求職者の方の気持ちを整理したり、一步頑張ってみよう前を向けるように勇気づけたりすることも必要だ。新卒から長年スタッフィング部門を経験してきた青山さんだが、入社後すぐは10歳以上も年上の求職者の方にヒアリングや仕事の紹介をすることも多く、果たして自分の言葉はどのくらい相手に響いているのだろうか、自分は頼りにされているのだろうかと感じて悩むこともあった。しかし、カウンセリング力を上げようと資格の勉強をしていく中で「あの時求職者の方は

こういう思いだったんだ」と理解できるようになった。勉強することで相手を理解し実際に声かけを工夫する、この経験を積んできたことが今に繋がっているという。そして現在青山さんは、グループ長としてメンバーのカウンセリング力向上に努めている。メンバーが面談をする際同席し、面談後フィードバックやアドバイスを行っている。メンバーのカウンセリング力を向上させることによって、求職者の方にとってより良いサービスを提供できるよう努力し続けている。

最後に青山さんは以下のように語ってくれた。「仕事をしていると、もちろん楽しいことばかりではない瞬間もあると思います。でも、だからといって仕事をしないという選択をするのはすごくもったいない。仕事は1日の大半を占めるものなので、お金のためだけにやるのではなく、どう自分の役割を全うしていくか、そしてそれをどう楽しむかも大切です。そのことをパソナに来ていただいた方には発信していきたいですし、気づいていただけるような仕組みづくりをしていきたい。それが私の永遠の夢ですね。」

人材派遣・BPO事業本部
関西営業本部長補佐 兼
関西スタッフィンググループ長
青山 香織さん

会社・仕事紹介

人の温かさに救われた

取材テーマ ▶▶ 社風・風土



パソナグループは、「社会の問題点を解決する」という企業理念のもと、誰もが活き活きと自由に働くことができるよう、いくつもの仕事のインフラを創るソーシャルソリューションカンパニーだ。

パソナで働く青山さんは関西スタッフィンググループのグループ長。スタッフィンググループとは派遣の登録に来られる方に対して、フロントとして対応する部署である。青山さんがパソナの社風・風土として挙げたのが、自らやりたいことに関して任せてもらえる「挑戦できる環境」、目標を達成するまでのプロセスを工夫するなど「楽しんで仕事をする雰囲気」、そして「人の温かさ」の3つだ。その中でも特に青山さんは「人の温かさ」に救われたという。青山さんは二児の母親であり、子どもが小さい頃は病気で休まなければならない時が何度もあって心苦しさを感じていた。しかしその時、周りの社員はそのことを理解し快く承けてくれた。こういった温かさがあったからこそ、子供が大きくなった今、周囲のママ社員への気遣いに繋がっているし、また、会社全体として理解しあう雰囲気が醸成されていると青山さんは語る。

加えてパソナでは社員同士での声掛けや助け合いが根付いている。社内では新人からベテランまで互いの仕事状況を把握し、困ったときには周りのメンバーに手伝ってほしいと言合える。

青山さんは特に感謝の気持ちを伝えること、声掛けをすることを重要視している。というのも、青山さんがグループ長を務めるスタッフィンググループのメンバーは日々求職者の方に会い、相談を受ける。まずは面談担当自身の体や心が元気でなければ、迷いや悩みを抱えてパソナに来られた求職者の方を勇気づけられないからだ。青山さんは「人材サービスは商品があるわけではなく、どちらを向いても人です。どこを向いても元気な人材であって欲しいので、人を大切にすることを大事にしています」と語った。

青山さんが今でも覚えているのが、就職活動中に説明会でパソナを訪れた際聞いた「仕事は何をするかも大事だが、誰と働くかもとても大切だ」という言葉。入社した時から変わらない社員同士の思いやりに、青山さんは今でもあの言葉は間違いではなかったと感じている。

1996年発達科学部卒業

青山 香織さん

事業内容・注目点

「社会の問題点を解決する」という企業理念のもと、誰もが活き活きと自由に働くことができるよう、いくつもの仕事のインフラを創るソーシャルソリューションカンパニーです。女性、若者、中高年の就労やキャリア構築の支援、ワークライフバランスの充実、企業のグローバル化支援、地方での地域活性化や就農支援などに取り組み、ゼロからさまざまな仕事のインフラを創造しています。

社風・風土

年齢・役職問わず、非常にコミュニケーションがとりやすい環境です。上司との距離も近く、日々のコミュニケーションの中でも小まめに意見を聞いてくださり、チャレンジを後押ししてくれます。

関西で働く魅力

関西の企業とエキスパートスタッフの橋渡しとして、就業開始までの仕事案内と、就業開始後安定就業頂くためのサポートをします。真摯に取り組むことで企業とスタッフの方に信頼して頂けることにやりがいを感じます。

HPアドレス▶▶ <https://www.pasona.co.jp/>

三ツ星ベルト株式会社



産業資材技術統括部 材料技術部
部長
内海 隆之さん



会社・仕事紹介

緻密な努力で 物事の本質を捉える

取材テーマ
▶▶ 技術力



三ツ星ベルト株式会社は、主に工業用ベルトを製造・販売する企業である。メインは自動車などに使われる伝動ベルトとコンベヤなどに使われる搬送ベルトだが、合成樹脂素材・建築用防水材・電子材料など幅広く事業を展開している。

今回お話を伺った神戸大学工学研究科のOBでもある内海氏は、様々な製品の目的に合わせた性能を持つベルトの材料開発をする材料技術部部長だ。ベルトの元となるゴムはカーボンブラック、老化防止剤、加硫促進剤など多いものだとして20種類以上の薬品を混ぜて作られる。「ゴムの分野はあまり最先端ではない。」と内海氏は言う。変化が激しい電子材料などの分野に比べると、ゴムの分野はそこまでの急激さはない。しかしだからこそ基礎を固めることを大事にしてきたという。多くの薬品を使うため、時には偶然、性能の良いゴムが生まれることもある。そういったときに結果だけに満足せず、その現象が起こった原因まで徹底的に突き詰めるという意識が社員の中に根付いているそうだ。時間はかかるが、そこにこだわらないと次のステップに進めない。「ゴムの本質を見極める。」そう語る内海氏の眼差しが印象的だ。

三ツ星ベルトの確かな技術力を支えている要因の一つに「先ずはやってみよう」とする社風が挙げられる。今までのゴムの配合

の考え方では行わない、行ってはいけないとされていたような手法をあえて採用してみると他社と比べて性能のいいベルトができることがあるそうだ。セオリーを崩していこうとすること、これもゴムの本質・基礎を大事にしているからこそできる手法だ。また、若い社員に任せようとする姿勢も要因の一つだろう。入社2、3年目から製品のリーダーを任せることもあるそうだ。失敗することも多いが、いずれその経験が活きるかの考えからだ。また、ゴムについてまだまだ熟知していないからこそ、先輩社員が思いつかないようなことを考えてくる。その発想力と熱量が新たな発見に繋がるのだという。

聞けば聞くほどわからないことだらけのゴム分野。思い通りにいかないからこそ面白さもある。「今となっては可愛らしい…」ポツッと呟く内海氏。その言葉の裏に隠されたゴムの奥深さ、ゴムへの愛情の深さが垣間見えた。

OB・OG紹介

確かな手応えとプロとしての意識

取材テーマ
▶▶ 仕事のやりがい



黒田氏は現在入社6年目。研究開発本部で基礎研究担当をされている。金属ナノ粒子を用いた電子材料系の製品の開発・研究を行っており、なかでも銀のナノ粒子を中心に扱っているという。本来は融点が1000°C近くになる銀を小さなナノ粒子にすることで融点が低くなり、低温で焼けるようになる。その特性を活かして銀のペーストやインクを作り、電子材料の配線などに応用するための研究や開発を仕事としている。

ナノ粒子の開発はまだ歴史の浅い事業だそう。それが現在では社外から問い合わせが入る段階にまで達してきており、それはすごいことだと感じると黒田氏は言う。お客様は困っているため、何か解決策はないかと尋ねてくる。何もないところから始まった事業を、問い合わせがくるころまで発展させられたことが大きな喜びとなっているそうだ。今後もっとこの事業を広げていけると語る黒田氏。今はようやく市場に売れだしてきて、それをさらに広げていこうとする段階。先のことになると思うが、今作っているものが色々な製品に使われたり、市場に広がってくれたりしたら嬉しい

という。

仕事の難しさを尋ねると、「自己満足で終わらせられないというのが大きい。三ツ星ベルトにはベルトという主力の製品があり、自分はベルトに代わる新しい製品、使えて売れる製品を作らないといけない。作れたとしても作りにくいものや少量だとダメで、コストの面も考えないといけない。そこが学生時代の研究とは違う部分。」と答えが返ってきた。黒田氏の仕事は、お客様と実際にやり取りをする中でその要望を叶えていくもので、実際にやってみないとわからないことも多いそうだ。要望に合わせてトライアンドエラーを繰り返す。大変なこともあるが、面白くて大きなやりがいを感じるころだという。

今年度から担当課長になった黒田氏は、その変化について「やるのが大きく変わったわけではないが、責任の部分で意識が変わった。主体的にやらないといけない、他人事ではやっていけない、と。今は研究開発だが、そこから事業部を作れるレベルまで大きくしていきたい。」と夢を語ってくれた。



2013年工学研究科応用化学専攻修士
研究開発本部 基礎研究担当 担当課長
黒田 雄介さん

事業内容・注目点

三ツ星ベルトは1919年に神戸で創業した「ものづくり」の会社です。自動車用やプリンターなどOA機器用をはじめとした産業用ベルト、建築・土木用防水シート、高機能プラスチックなどの製造・販売と業容を拡大。海外9ヶ国に生産・販売拠点を12ヶ所を設け、グローバルな事業展開を行っています。また、環境保全活動、地域活性化にも取り組んでいます。

社風・風土

三ツ星ベルトではメーカーとして技術力・開発力を大切にしており、生み出される高機能、高精度、高品質な製品が業界屈指の高い評価を得ています。

関西で働く魅力

明治18年に兵庫県内にわが国最初のゴム工場が設立され、その後神戸を中心としてゴム工業が栄えてきました。当社も100年間の歴史のなかで培われた技術力を世界に発信しています。

HPアドレス▶▶ <http://www.mitsuboshi.co.jp/japan/>

株式会社みなと銀行



OB・OG紹介

人の役に立つ実感のある仕事が やりがいとなる

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



市場金融部 調査役
都倉 洋一さん

みなと銀行に勤務する神戸大学OBの宇野さんは、営業店での融資業務や法人営業を経て、2年半前から本部での業務を行っている。現在の宇野さんの仕事は「法人業務部 事業性評価室」で、様々な営業店で困っていることや難しい案件のサポートを行うことである。エリアを区切って1人が複数店舗を担当している。

銀行の法人営業は、1人でお客さま50社を担当することも少なくないと宇野さんは語る。その中で、宇野さんに仕事のやりがいについて尋ねると、一番印象深いエピソードとして、営業店時代からのお客さまとの取引について語ってくれた。宇野さんがとある営業店に配属され、法人営業をしていた時のこと。新規取引を目指して3年間ある企業に訪問を重ね、関係性を築き、決算書を開示して頂くまでに至った。しかしその後、融資についての提案ができなまま、宇野さんは現在の法人業務部(当時は支店サポート部)に異動となり、その営業店から離れることとなってしまった。異動前、その企業から、「土地を購入したい。まだ見つからないので、我が社が見つけたら、その後最初にお話しさせて頂いた銀行に融資をお願いする。銀行が見つめてくれたらその銀行に融資をお願いする」という宿題を言い渡された。それから半年、以前勤務していた営業店を含むエリアの担当となった宇野さんは、再びその企業を訪ねた。「昨日土地が見つかった。融資をお願いする銀行はまだ決まっていないので、よければお願いしたい。」この後、その企業とは融資の契約を結ぶこととなった。宇野さんの根気が、みなと銀行にとっては新たなお客さまとの取引を、お客さまにとっては土地の購入による事業の発展ををもたらすという最高の結果となった。「お客さまに関する情報が私が多く引き出せていたので、うまく営業店に情報提供できたことがよかったです」と宇野さんは語る。自分の仕事がお客さまの役に立ち、喜んでもらえることがやりがいになっているという。

宇野さんの目標について伺った。「お客さまのことをよく知って、基本的なことができるように後輩を育成すること」、そして、「学んだ専門性を活かすこと」だと語った。みなと銀行の未来に向けて、これからも努力を欠かさない、という姿勢を強く感じた。

宇野さんの目標について伺った。「お客さまのことをよく知って、基本的なことができるように後輩を育成すること」、そして、「学んだ専門性を活かすこと」だと語った。みなと銀行の未来に向けて、これからも努力を欠かさない、という姿勢を強く感じた。

会社・仕事紹介

一人ひとりが役割を 発揮するために

取材テーマ
▶▶社風・風土



銀行のイメージといえば、「まじめな行風」「かたいイメージ」と思う学生が多いのではないだろうか。

みなと銀行は、営業店のほとんどが兵庫県にあり、兵庫県民や兵庫県の企業と密接に関わる銀行である。しかし、銀行にはお客さまから見える部分だけでなく、見えづらい部分を担う人もいる。今回お話を伺った都倉さんは、営業店、証券国際部でキャリアを積み、現在は市場金融部に所属し、海外マーケットを舞台に株式や投資信託など、主に証券に関する業務をされているという。

銀行の業務は、お客さまの大切なお金に携わるため、より正確な事務が求められる。都倉さんによると、行員一人ひとりが細やかな気配りを心がけているという。このため、「まじめでかたそう」というイメージに繋がってしまいがちだが、少しの気配りがミスを防ぎ、お客さまからの信頼に繋がる。

また、みなと銀行に在籍している行員は2,000名以上おり、年代や性別に関係なく活躍できるフィールドが広がっている。したがって、一人ひとりが大きな役割を發揮しないとイケないと都倉さんはいう。ご自身は部下に対して「部下により高いパフォーマンスを

發揮してもらうために、まずは自分でやってみせること。そして、情報交換を密にやっていくこと。それらを常に意識して行っています。」と語ってくれた。社風を一言で表すと「和気藹々(わきあいあい)」とのこと。業務上のコミュニケーションとして毎日市場の情報交換を行うことや、ランチや懇親会を通して親交を深めることなどで、コミュニケーションを円滑に取るための努力を惜しまない、まじめでありつつもかたすぎないみなと銀行の一面が垣間見える。

みなと銀行は「地域のみなさまとともに歩みます」という経営理念を持つ。この経営理念を実現するために行員はそれぞれの役割を果たし、兵庫県と密接に関係する銀行としてみなと銀行のさらなる発展を目指している。そのための「コツコツと信頼を得る」「コミュニケーションを大切にす」社風で、みなと銀行は今後も兵庫県を支える。



2010年経営学部卒業
法人業務部 事業性評価室 代理
宇野 誠哲さん

事業内容・注目点

当行は、県下最大規模のネットワークを擁する、兵庫県を代表する地域金融機関です。ものづくり企業や農林漁業、観光など成長産業のファンドや地域創生の取り組みに独自のノウハウと強みも持っています。関西最大の地域金融グループ「関西みらいフィナンシャルグループ」の一員である当行は、グループでの強みの共有、相互補充、新たなサービスの提供により、地域密着型のビジネスモデルを更に深化させ、地域に貢献して参ります。

社風・風土

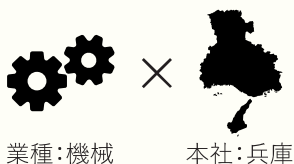
～地域のみなさまとともに歩みます～という経営理念のもと、行員一人ひとりが「地域のみなさまのお役に立ちたい」「地域を元気にしたい」という熱い思いで、日々の業務に取り組んでいます。

関西で働く魅力

関西最大のお客様基盤と店舗ネットワークを生かし、地銀の枠を超えた発想と行動力で活躍するフィールドは無限に広がっています。全国トップクラスの地域金融グループで働く誇りとやりがい、みなと銀行にはあります。

HPアドレス▶▶ <http://www.minatobk.co.jp/>

森合精機株式会社



業種:機械

本社:兵庫

OB・OG紹介

お客様に合わせた オーダーメイドを自分の手で

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



装置事業部 事業部長
若松 郁夫さん

若松潤氏は現在入社2年目。大学ではVRを活用し人間の思考回路に関する研究をしていたが、もともと製造業に興味があり森合精機に入社した。決め手は先輩社員と話す機会を多く作ってもらい入社後のイメージを想像しやすかったからだという。現在は森合精機の主力製品を担当しており、お客様の要望に合わせた製品の改良をしている。昨年度までは機械の一部分を担当していたが、今年度から機械全体に携わるようになった。扱える幅が広がったことで分かってきたこともあると語る。

洗浄機は車や建機など様々な業界のお客様からの要望に応える形で、洗浄する部品一つ一つに合わせて洗浄機の仕様をオーダーメイドで変えていく。洗浄機の面白さを尋ねると、「いろんな部品が見られるのが楽しい」という答えが返ってきた。この業界で働かないとなかなか見られないものを見られることに仕事の楽しさのひとつがあるようだ。また、「お客様の要望に合わせて自分で悩み考えて図面を描くことがつらいところでもあり楽しいところでもある」とも教えてくれた。昔から自分で考えることが好きだったとい

う若松氏。大学での研究も参考にできる既往研究が少なく、自分で考えてやっていかなければいけないことも多かったという。「突き詰めていくのが好き。新しいことや知らないことを覚えることが辛いこともあるが、毎日同じことをやるよりは仕事のやりがいを感じられるし、なにより仕事楽しい。」と笑顔で語ってくれた。また、洗浄機は製造業を支える機械であり、産業を支える一端を担っているという自負もあるという。

2年目になり、より仕事への責任感が芽生えてきた。1年目はわからないことを教えてもらう立場だったが、2年目の今では、先輩から聞かれることも増えてきて、逆に教えることが出来るようになっていないといけないと意識が変わったという。「一つ一つの仕事にかけられる時間は減っているけど扱う量は増えているので、仕事の質も意識しながらやるようにしている。」と言うが、実際に取材時、同時進行で手がけていた機械の数は15台程度で、当然全てオーダーメイドだ。高いレベルの質と量の実現を目指し、お客様の要望に応えた製品を作り続けていくのであろうと感じた。

会社・仕事紹介

先を見据えたものづくり

取材テーマ
▶▶技術力



森合精機株式会社は、兵庫県明石市に本社をおく洗浄機器・油圧機器・減速機を製造するメーカーだ。主力製品の洗浄機製造の成長を支えてきたのが、今回お話を伺った装置事業部の事業部長、若松郁夫氏である。若松氏は30年以上洗浄機の営業・開発に携わってこられた。

森合精機の取引先は主に自動車業界だ。洗浄と聞くと学生には馴染みがないかもしれないが、自動車に使われる部品は洗浄という工程を経て使われている。汚れが付着したままだと製品に支障をきたすからだ。油を使って洗浄する方法もあるが、車は搭載している部品が多く、コストを安くするために多くの車の部品は水を使って洗浄している。また、水で洗うということは安全、環境面でも優れた方法だ。「森合精機の凄さは洗浄機の種類の多さ。間違いなく日本一。もしかしたら世界一かも。」と語る若松氏。洗浄する部品や求める洗浄力によって洗浄のやり方一つ一つ変えていかなければいけないところが洗浄の難しさである。そのため、森合精機では様々なお客様の要望に合わせた製品を数多く開発し、取り扱っている。

また、森合精機では洗浄機だけでなく、洗浄したあとの部品がきちんと洗浄できているのかを測るための装置も開発している。

きれいかどうかは肉眼ではわからないため、昔は顕微鏡を使って付着物がついているかをチェックしていたそうだ。しかし、森合精機では付着物の個数や大きさを測る装置を20年前に既に開発していた。これにより最小0.005mmの大きさの付着物を読み取ることができるよう。「でも、早すぎた。」という若松氏。20年前はそこまでの品質は求められていなかった。しかし、今は時代が変わり、付着物の大きさやその個数まで精度を要求される。ようやく時代が追いついてきたと若松氏は語る。

電気自動車普及していく流れのなかでこれまで洗浄する対象としてきた部品が扱われなくなってくる。しかし、森合精機は全く悲観的ではなく、むしろビジネスチャンスを見据えていた。これまでの長い歴史で培った先を読む力でこれからのニーズに合わせた装置を開発する。向かい風すら追い風に捉えて一歩を踏みだそうとしている。

事業内容・注目点

森合精機は工業用洗浄機、減速機、油圧機器の「3本の柱」を持っています。特に工業用洗浄機では業界シェアNO.1を誇り、国内の全自動車メーカーを中心に、ご愛顧頂いています。製造業において「洗浄」という行程は必要不可欠で、営業、技術部門、本社部門が三位一体となり、「日本のものづくり」を根底から支えています。NO.1のプライドを持ち、お客様と真摯に向き合う我が社。共に、「日本のものづくり」を支えましょう！

社風・風土

若手もどんどん増えてきておりますが、ベテラン社員も含め、年齢差を感じさせない風土のよい風土です。社内イベントにも力を入れており、今年の夏はボーリング場を貸しきって、ボーリング大会を開催しました！

関西で働く魅力

「関西」=「お笑いの文化」=元気でですね。頑張るときはしっかり頑張る、そして笑顔のある会社。それが関西で働くことの、「オモシロイ」こと。森合精機は自由闊達な社風のもと、活気のある働き方をしています！

HPアドレス▶▶ <http://www.morigoseiki.co.jp/>

大和工業グループ



OB・OG紹介

仕事を楽しめる環境

取材テーマ
▶▶仕事のやりがい



お話を伺った山口さんは、大和軌道製造株式会社で経理の仕事をしている。主な仕事内容は日々の入出金の管理、月ごとの原価の管理、年ごとの期末決算などである。自身は経営学部出身ということもあり、簿記を学んだ事が今の仕事に活かされているという。

仕事は、各部署から回ってきた請求書をまとめることから始まる。それらの数字を通して、各部署がどのようなことをしようとしているのか分析し、把握できることにやりがいを感じるという。

数字をもとに分析することは難しい。この仕事には、かなりの正確さが求められるため、自分に厳しく小さなミスもしないように心がける必要がある。利益があまり出なかった月があれば、その原因は何にあるのか改善案を出し、各部署に伝える事が今後の目標だと語る。達成のために、隙間時間に古い資料をみて傾向をつかむことや、貪欲に人に聞きに行くこと、他の部署のことも知ることなどを意識的に行っており、これにより視野を広げ、自部署の仕事もより良いものにするという。そんな山口さんの今の自分に対する満足度は60パーセント。分析がまだ思うようにできず、仕事が「作業」になってしまうことも多くある。もともと控え目な性格だったという山口さんが、自ら積極的に動き、貪欲に質問できるようになったのは、この会社の気軽に話せる雰囲気があることであり、

会社の人間関係の良さを垣間見ることができた。

山口さんのモットーは「なんでも楽しむこと」。「会社=しんどい」と言うイメージを持つ人も多いかもしれないが、例えば単純作業でも、もっと改善はできないか、より見やすい資料は作れないかなど、何か考えて仕事をする事が大事だ。ただ、今では具体的な目標を持ち達成のために邁進する山口さんも、入社前からやりたいことが明確に定まっていた訳ではない。はじめは、数字を扱う仕事をしたいと考え、地元の企業を調べていたときにこの会社を知った。工場見学をする中で、当時分岐器をつくらしている国内の会社はわずか8社というニッチな世界であることを知り、そのような世界で競争していけるのが面白いと感じたこと、そして会社で出会う気さくな人柄の社員達の雰囲気から惹かれ、大和工業に入社を決めた。自身の経験から、就活をするときには自分の性格や今の能力、興味などに絞ってしまわずに、自分の視野を広げるためにも色々な会社・業種を見に行ってみようと思った。

入社して興味の幅を広げた山口さんは、様々なことに積極的にチャレンジし続けたい、と仕事へのやる気に満ち溢れていて、とても魅力的だった。

会社・仕事紹介

日本と海外の懸け橋に

取材テーマ
▶▶グローバル性



兵庫県姫路市に本社を置く大和工業は、H形鋼の製造をメインに行う鉄鋼会社。H形鋼とは、ビルや橋の柱・梁を作る際に用いられる鉄鋼の骨材である。大和工業は海外への事業展開を積極的に行っており、現在、アメリカやタイ、韓国、バーレーン、サウジアラビアにも拠点を構える。海外での展開を行う際に特徴的なのは「技術先行」というスタンスだ。大和工業が技術を持ち込み、現地の企業には営業や運営を任せるといった形式をとっている。

平松さんは5年間、韓国の事業所で駐在員として経験を積んだ。韓国では語学面での苦労はあったものの、権限の幅が広く、働く楽しさを感じたという。当時、協力会社も含めると500~600人ほどの工場の中で、日本人は平松さん1人。そのため業務はエンジニアの担当範囲だけではなく人事や経理、購買といった部分にまで及んだ。日本とやりとりをする際には、初めて扱う分野も多く、まず基本的な用語を覚えることから始めることも多かったという。しかし幅広い業務に携わったおかげで、会社がどのような仕組みで動いているか理解することができた。韓国での経験から、日本で働いていた時よりもさらに視野が広がり、会社全体のことが見渡せるようになったという。

技術統括部とは、日本と海外の事業所間の情報の共有や、海外の工場でトラブルが起こった際に直接出向いてその解決を支援する部署だ。大和工業では、日本で働いていてもグローバルに働いていると感じることは多いという。現在、平松さんが担当しているのが、サウジアラビア工場の製造設備の設計。平松さんが書いた図面が工場に渡され、その図面を基に新しい製品が作られる。「まだ行ったことのないサウジアラビアという土地で、自分の設計した設備で製品が作られ、役に立つというのは面白いですね」と平松さんは語った。

平松さんが働いていてやりがいを感じるのは、海外との懸け橋ができたときだ。本社と海外の事業所で意思疎通ができていない時でも、間に入って丁寧に説明することで互いに理解でき、win-winな関係になれる。大変なこともあるが、懸け橋の役割ができた時はとても達成感があり、今後もそのような役割を担っていきたい、と平松さんは語ってくれた。

韓国での5年の経験を経て、平松さんは現在、技術統括部で働

執筆/文学部 大道優香



2015年経営学部卒業
大和軌道製造株式会社 業務部
山口 純佳さん

事業内容・注目の点

東証一部上場の大和工業(株)を中核とする、鉄鋼・軌道用品事業グループです。フェアとグローバルをモットーに電炉鉄鋼メーカーとしてはいち早く海外展開に取り組みました。若手であっても意欲や実力があれば早くから海外を経験させ、将来的には当社のコア人材として活躍していただきたいと考えています。働き甲斐のある誠実な企業集団の一員として会社とともに自分自身を成長させてみませんか。国際派の貴方をお待ちしています!

社風・風土

当社が大切にしているのはフェアの精神です。顧客、サプライヤーの別なくフェアな取引を重んじている事だけではなく、社内であっても上下双方向に自由に意見を発信している風土を目指しています。

関西で働く魅力

国内単独拠点である姫路(全ての技術・ノウハウが集中!)より、多くの社員が当社の技術や海外に伝える役割をしています。海外からの来客も多く、関西にありながら若手であっても世界との繋がりを感じられる企業です。

HPアドレス▶▶ <http://www.yamatokogyo.co.jp/yamato/yamato1/>

執筆/文学部 藤嶽由美香